

赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト 第3回助成決定に当たって

1. 選考の過程

「赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト」の第3回助成にあたっては、被災地で子どもに関する支援を行っている団体について、以下の4つの条件に基づき、860を超える団体のリストアップを行いました。

[条件]

- ①過去に赤い羽根「災害ボランティア・NPO 活動サポート募金」(ボラサポ)に応募したことがある団体
- ②岩手・宮城・福島県共同募金会で把握している団体
- ③被災県の状況や活動団体について詳しい団体から推薦を受けた団体
- ④以下の指標を満たす団体

その中から、2年間にわたって一定規模の助成金を提供し、活動をしてもらい、成果を挙げ、その活動を定着してもらおう関係から、下記指標をクリアしていると判断できる候補として、12団体を選出しました。

[指標]

ア)活動規模

- ・常設の活動場所があるか
- ・定期的な活動を行っているか
- ・一定の活動規模があるか
- ・地域や市民を巻き込んだ活動を目指しているか

イ)資金状況

- ・団体の資金が、特定の助成や補助金に偏りすぎているか
- ・自己資金の活用も検討しているか
- ・助成期間終了後の活動資金について検討しているか

ウ)情報発信

- ・インターネットやその他媒体を活用して積極的に情報発信を行っているか

選出した12団体に対して本プロジェクトの内容について説明し、応募するか否かの検討を依頼した結果、応募を辞退した2団体を除く10団体から応募の意思表示があり、団体資料と助成事業の提案書が提出されました。

選出委員会では提出された提案書を元に、選出委員と事務局が手分けして現地のヒアリング調査を行いました。ヒアリングを行った10団体は、子どもたちが抱える課題を解決すべく、地域で中心のかつ精力的に活動を展開しており、活動資金となる寄付、補助金、助成金などが減っている中、活動を継続していくためにさまざまな努力や工夫をしていました。

現地のヒアリング調査の結果や確認事項等を持ちより、11月25日に第3回選出委員会を開催しました。委員会では各委員が担当したヒアリング調査の結果を他の委員に報告し、かなり突っ込んだ議論、厳正なる協議を重ねた結果、最終的に5団体に対する助成を決定しました。

2. 選考の論点

前記の第3回選出委員会では、限りある助成金を広く子どもの支援につなげるため、特に以下の点に留意して協議を行いました。

- ①3県(岩手、宮城、福島)から少なくとも1か所ずつ採用すること
- ②「心のケア」、「居場所づくり」など、多様な事業内容の活動を採用すること
- ③できるだけ多くの団体に助成を行うこと
- ④ヒアリング結果に基づき、各団体の強み、弱みを明らかにし、相対的な評価を行うこと
- ⑤中期的な視点から活動の持続性をみきわめること

助成を決定した5団体は、活動内容や実施方法にそれぞれ工夫が凝らされている点が高く評価されました。

1. 活動の対象を子どもとしながらも、子どもに対する支援を行うことで地域のコミュニティをつくること、そのことにより途切れてしまった関係をつなぎ直すことを意識している
2. 子どもをきっかけとすることで大人もつながることができるという考えに基づき、多様な機関、団体とネットワークを構築している
3. 公的な支援ではカバーできない部分を補うだけでなく、さらに支援内容を拡充している
4. 限りある資金で、効率的な実施方法により、受益者の幅を広げている

残念ながら不採用となった5団体についても、活動内容や必要性自体は高く評価されましたが、経費積算、活動の計画性、継続性、支援対象となる人数の少なさなどが課題となり、今回の助成は見送ることになりました。

3. 終わりに

赤い羽根チャリティホワイトプロジェクトは、ソフトバンクのチャリティホワイトに加入する皆さまのご寄付を財源として実施されています。

震災から6年が過ぎ、これまでにチャリティホワイトを通じてご寄付いただいた人数は累計299万人、募金額は11億円に到達しました。被災地の活動への支援が年々減っている中、3回目となる助成を実施できたことは、何と云ってもソフトバンクのチャリティホワイトの趣旨をご理解いただき、毎月毎月ご寄付いただいた皆さまのご支援、ご協力があったのことに深く感謝申し上げる次第です。

最後になりましたが、2016年12月に第2回助成を行った5団体の助成期間が終了し、2017年3月に第1回助成を行った1団体の助成期間が終了します。

本助成による活動の成果を活かし、これからも先の長い被災地の子どもたちを支えていくための活動を継続し、発展させていただき、本当の復興の日々が到来することを心から祈念申し上げます。

以上

赤い羽根チャリティホワイトプロジェクト

選出委員会 委員長 田中 皓